



日本大学 FD NEWSLETTER

SUMMER
2016
VOL

10

FD 学生FDサミット2016春 in N 日本大学



“学生参画型FD”特集

Contents

日本大学で「学生FDサミット2016春」開催	2
「日本大学 学生FD CHAmmit 2015」開催	3
教育の質的向上に向けた学生参画の可能性	4

COVER PHOTO

総勢522人。日本大学を会場に開かれた「学生FDサミット2016春」に全国の大学から集まった学生・教員・職員らは過去最多。2日間にわたり、大学の垣根を越えて熱く語り合った。

日本大学で「学生FDサミット2016春」開催

平成28年3月12・13日、日本大学文理学部キャンパスを会場に、「学生FDサミット2016春」が開催されました。学生FD活動に取り組む学生・教員・職員らが全国から集まり、三者の協働のあり方について語り合いました。

◎学・教・職の三者一体を目指して

「学生FDサミット2016春」は、全国から66大学、学生・教職員ら522人が参加して開催されました。

今回のテーマは、「キャンパスを彩る三原色」。サミットの企画・運営を担当した学生スタッフ代表の浅野和香奈さん（工学部4年）によると、このテーマには、「大学の教育活動には、学生・教員・職員、つまり三原色はどれも欠かせない存在。改めてお互いをよく知り、それぞれの意見を取り入れて考えていくことが、大学の授業をよくするためには大切」という意味が込められています。

主なプログラムは3つあり、①ポスターツアーで他大学の活動と三者の関係性について知り、②分科会で多様な立場の人のプレゼンテーションを聞いて



学生スタッフが企画したポスターツアー。参加者からの得票数によって、最優秀賞は日本大学文理学部、プレゼン賞は横浜国立大学、デザイン賞は中京大学が受賞した。

考えを広げ、③しゃべり場で互いに考えを語り合う、という流れで進められました。このうち①と③は、参加者全員が、大学や立場が混在するように8～9人の班（全60班）に分けられました。

①ポスターツアーは、班のメンバーのアイスブレイクを兼ねて行われました。ポスターは所属団体の学生FD活動について紹介する内容で、30団体が出展。班ごとにポスターを見て回り、メンバーが所属する団体のポスターについては、そのメンバーがほかのメンバーに自分たちの活動を説明しました。

参加者からは、「見て回るだけでなく、それを作成した人から説明を聞くことができ、他大学の活動内容がよく分かった」と好評でした。

◎各立場から学生FDへの思いを聞く

②分科会では、三原色それぞれの立場での学生FDとの関わりについて理解を深めるため、「学生」「教員」「職員」「OB・OG」の4つのフレームが設けられました。それぞれ2部構成で計8グループがプレゼンターとなり、講演やワークショップを実施。参加者は、自分の関心のあるフレームに出席しました。

その一部を紹介すると、教員フレームの第一部では、「学生と教職員の思いはどれだけずれているのか?」と題して、



分科会の職員フレーム第二部の様子。母校の大学職員となった3人が、それぞれの職務内容や思いを熟弁した後、「職員と学生の関係」について学生代表と語り合った。

S・A・T・Aなど学生活動のマネジメントに携わった嘉悦大学の教員と学生が対談を行いました。学生FDを支援する教員と、学生FDを行ってきた学生の思いの共通点とずれを確認し、今後の活動のヒントにしようというのが狙いです。学生FDについて何も知らなかった学生が、教員に頼まれたことをこなしながら活動し、やがては自分で考えて行動できるようになるという成長過程もうかがえました。

学生フレームの第二部は、山口大学がプレゼンターとなり、「何を期待しちよる!? 未来の学生FDと三者共創のためのメソッドを提案するワークショップ」が行われました。山口大学が考える「地方創生×三者共創」を説明する寸劇の後、学生・教員・職員が属性ごとに3人1組となり、自分たちの弱みと強みを考える

「学生FDサミット」とは?

全国の大学から「学生が主体的に参画する教育改善を中心とした活動（学生FD活動）」に関する学生・教員・職員が一堂に会し、各大学における活動や成果を発表し合い、大学教育における課題等を共有し議論する場です。立命館大学の木野茂教授（当時）の提唱により、2009年8月から年に1～2回開催しており、今や50大学・500人以上が参加しています。第1回は100名の参加でしたが、今回、本学で主催した12回目となる「学生FDサミット2016春」は過去最多となる、66大学から522名の参加を得て、盛大に開催されました。

第8回（2013年8月）の立命館大学で開催された学生FDサミットまでは、関西を中心とした西日本地域で開催され、学生FD活動も「西高東低」と表現されることが少なくありませんでした。しかし、第9回に初めて東日本（東洋大学）で行われ、今回の本学における開催で2回目の東日本開催となっています。

●第12回 参加大学

北海道大学、北海道教育大学、酪農学園大学、札幌大学、北海道医療大学、北翔大学・北翔短期大学、東北工業大学、群馬バース大学、文教大学、跡見学園女子大学、青山学院大学、国土館大学、芝浦工業大学、大正大学、多摩美術大学、東京経済大学、東京薬科大学、東邦大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学大学院、立教大学、明星大学、帝京大学、嘉悦大学、東京聖栄大学、東京未来大学、宝塚大学、横浜国立大学、神奈川大学、関東学院大学、相模女子大学、東洋英和女学院大学、常葉大学、新潟医療福祉大学、富山大学、金沢大学、金沢星稜大学、福井大学、愛知教育大学、中京大学、名城大学、愛知淑徳大学、龍谷大学、京都光華女子大学短期大学部、京都産業大学、明治国際医療大学、京都文教大学、追手門学院大学、大阪産業大学、阪南大学、神戸大学大学院、神戸学院大学、関西学院大学、岡山大学、岡山理科大学、広島経済大学、鳥根県立大学、山口大学、下関市立大学、九州工業大学、北九州市立大学、熊本学園大学、琉球大学（66大学）

ワークに取り組むという内容です。プレゼンターとして数グループが発表し、教員として学生に期待することや、学生だからこそ発揮できる強みなどを参加者全員で共有。それぞれの強みと相手に頼りたいことなどを知り、1つの目標に向かって三者が協働する大切さを確認する場となりました。

◎3回のしゃべり場で三者の協働を考える

③しゃべり場では、3つのテーマについて話し合いました。1つめは「理想の大学」。それぞれの立場にとらわれず、自分が思う理想の大学について語り合いました。2つめは「私たちから見た、学・教・職」。学生は教員や職員、教員は学生や職員というように、自分とは違う立場の人は、どのように考えているのか、どのような目標を持って行動してい

るのか、自分の考えを出し合いました。

3つめのテーマは「私たちの三原色」。2回のしゃべり場の内容を踏まえて、1つめのテーマでまとめた「理想の大学」を目指すために、学生・教員・職員の三者の関係のあり方を考えていきました。サミット後、各大学に戻り、学生FD活動への取り組み方、自身の行動について考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。そして、最後に、各班が模造紙にまとめた内容を、同じ教室で活動していた4つの班同士で発表し合い、さまざまな考えに触れました。

しゃべり場では、回を重ねるうちにメンバーと打ち解け、議論がだんだん活発になっていく様子が見られました。また、三者が意見を交わす中で、教員の学生に対する期待や、職員の学生に対する思い



しゃべり場では、意見を付せん書き、似た内容をまとめながら整理。メンバーの大半は初対面だったが、意見を言い合いながら考えを深めていった。

など、新たな気づきも得られたという参加者の声がありました。

学生主体で進められた大規模なイベントでしたが、学生スタッフの企画・運営力と、参加者の積極的な発言によって、それぞれに収穫のあるサミットとなりました。

「日本大学 学生FD CHAmmit 2015」開催

「学生FDサミット」終了後、「日本大学 学生FD CHAmmit 2015」が開催されました。「学生FDサミット」に参加した日本大学の学生・教員・職員が引き続き参加し、所属学部のFDについて語り合いました。

◎サミットで得た気づきを基に話し合う

今回で3回目となる「日本大学 学生FD CHAmmit」では、学部・学科混合の班で昼食をとりながら、「学生FDサミット」での成果を語り合う「オール日大昼食」の後、学部ごとの班に分かれて話し合う「学部ミーティング」が行われました。

「学部ミーティング」のテーマは、「自分たちの学部を良くしていくために何ができるか?」。日本大学での学生FDは、文理学部において学生発案型授業の実施などの実績がありますが、ほかには、生産工学部が組織化したばかりで、全学



「学部ミーティング」の様子。学生FDを広めるため、まずは、CHAmmitのように三者が話し合う場を学部内に設けようという意見があった。

的な展開が今後の課題です。そこで、「学生FDサミット」で知った他大学の活動や様々な立場の人の意見を参考に、所属学部で教育の質向上を行うための具体案を、学生・教員・職員の三者で考える機会としました。

◎「アクションプラン」を他学部に宣言

CHAmmitでは毎回「学部ミーティング」が行われていますが、今回の特徴は、今後の実践内容を模造紙にまとめるとともに、そのキャッチフレーズを「アクションプラン」として一言で表したことです。その内容を、同じ学部のほかの班と共有し、続く「オール日大発表」で、他学部の人たちにも発表しました。

「まとめた実践内容を学部内の話にとどめるのではなく、マニフェストのように公表して、責任と自信を持ってほしいと考えた。その内容が伝わりやすいように、『アクションプラン』として一言でまとめてもらった」と、学生スタッフ代表の浅野さんは語ります。

「アクションプラン」には、「学生FDの拡散」（商学部）、「風通しのよい学生・



「オール日大発表」で各班が「アクションプラン」を発表。学生から教職員に意見を発信する大切さなどが盛り込まれているプランもあった。

教員・職員の関係」（歯学部）、「家族になるうよ」（生産工学部）などが掲げられ、どの班にもFD活動に意欲的な姿勢が見られました。さらに、発表を聞いて、「ぜひ実行してほしい」と共感した班に投票する企画では、各教室の最も得票数が多かった3つの班が表彰されました。「将来のことだけではなく、今、自分がいる場所をより良くする大切さに気づいた。次にすべきことが見えた」と、表彰された班の学生は語気を強めました。

今回の2日間を契機に、FDへの学生の参画が日本大学全体に普及していくことが期待されます。

教育の質的向上に向けた学生参画の可能性

日本大学で学生FDに関わる教職員に、これまでの活動を振り返りながら、今後の展望を語っていただきました。

●大学全体として取り組む「日本大学 学生FD CHAmmit」

日本大学FD推進センターでは、平成25年度から3か年に及ぶ基本計画（中期計画）の1つに、「学生参画型FD活動の整備・強化」を掲げてきました。

全学FD委員会調査・分析ワーキンググループ（以下、WG）において、本学における学生参画型FDの在り方に関する検討を行うとともに、同プログラム

WGでは、教育の質的向上やFDにおける学生参画の雰囲気醸成することなどを目的として、平成25年度より、日本大学の全学部等の学生・教員・職員を対象とした全学的な学生FDイベントである「日本大学 学生FD CHAmmit」を開催しています。

3回目となった今回の「日本大学 学

生FD CHAmmit」は、全国各地の大学・団体からFD活動に積極的な参加者が集まる「学生FDサミット」と同時開催したことで、本学の参加者に大きな影響を与え、中期計画の最終年を迎えるにあたり相応しい節目となりました。（学務部学務課）

●文理学部の学生FDワーキンググループが推進する「定例のしゃべり場」と「学生発案型授業」

「学生FDサミット2016春」の目玉の1つであるポスターツアーで、最も多く得票したグループが本学の「文理学部学生FDWG」です。このWGは、いわゆるサークルとは一線を画し、文理学部FD委員会の下部組織、つまり学部公認の組織として位置付けられています。その活動目的は、大学における授業や学修

の質的向上にあり、教員・職員らと意思疎通を図り、学生の視点から様々な活動に取り組んでいます。

「学生FDサミット2016春」で、文理学部学生FDWGが掲示したポスター。

特筆すべき学内のFD活動の1つは、「定例のしゃべり場」です。しゃべり場は、「学生FDサミット」でも「日本大学 学生FD CHAmmit」でも最も時間が掛けられたプログラムであり、教員・職員・学生が三位一体でFD活動を行うために最も有効な方法であると思います。

課題は「しゃべり場」の参加者数の増加ですが、同学生FDWGではしゃべり場のテーマを「お気に入りの授業」など大学を「講義の場」として捉えており、今回のサミット及びCHAmmitにおいても同様に「授業・教育」にフォーカスして「しゃべり場」が展開され、文理学部の参加者の感想が概ね好評だったことを踏まえると、今後しゃべり場の母集団を増やしていくことは可能でしょう。

2つめは、「学生発案型授業」の積極的な推進です。日本大学の豊かな人脈を生かし、これまでに「2020年オリンピックの姿」などを開講しました。2016年度も「恋愛論」など、学生の関心が高そうなアクティブ・ラーニング形式の講義を積極的に発案しています。

「日本大学 学生FD CHAmmit」が軌道に乗り、本学の学生FD活動は盛んだと思われるようですが、各学部における取組は発展途上です。今回のCHAmmitの「学部プレゼン」で、文理学部、生産工学部（2016年度から）に続いて、学生FD組織の創設をミッションに掲げた学部が多かったことは、この事実を反映したものでしょう。（文理学部 吉田健一教授）

●日本大学における学生FDの今後への期待

私の学生時代である約30年前の教育は、教員が行う授業内容を事前に学生が知ることなく進められ、学生は一方に聴講した項目を復習し、知識を積み上げる学修が基本の、いわゆる“Teacher centered”の教育でした。それから数十年が経ち、高等教育は“Teacher

centered”から“Student centered”の教育へパラダイムシフトし、その実践に、教員および職員のサポートが欠かせないものとなってきています。

「学生FDサミット2016春」のテーマ、「学生×教員×職員、足りない色は、補えばいい。キャンパスを彩る三原色」

は、日本一の教育力をビジョンとする本学にふさわしい方略であり、その浸透は大きな教育変革につながる可能性を秘めています。学生FDが、組織文化として多くの部科校へ広がることが望まれます。（全学FD委員会プログラムワーキンググループリーダー 河相安彦教授）

*本ニュースレターに記載した役職・資格・学年等は、平成28(2016)年3月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第10号

発行日：平成28(2016)年6月1日[年2回発行] ©次号は平成29(2017)年4月発行予定
 発行者：日本大学FD推進センター センター長 加藤直人
 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
 e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/fd-center/
 所管部署：日本大学 本部 学務部学務課
 企画・編集：日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ



日本大学FD推進センター
のウェブサイト

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。
 本ニュースレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2016 All Rights Reserved.